令和５年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立 大原中学校 ）　　学校番号　２０９　　【様式】

目指す学校像	生徒が、希望をもって登校し、笑顔で活動し、満足して下校する学校

重点目標	
	１　「さいたま市ＧＩＧＡスクール構想」の推進と「主体的で、対話的で深い学び」の視点からの授業改善 ２　安心・安全な学校に向けた組織的な生徒指導、教育相談体制の充実 ３　地域とともにある学校づくりの推進 ４　生徒の夢の実現を支援できる教職員（教職員研修の充実）

※重点目標は４つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度			
	A	ほぼ達成	（８割以上）
	B	概ね達成	（６割以上）
	C	変化の兆し	（４割以上）
	D	不十分	（４割未満）

学校自己評価								学校運営協議会による評価
年度目標					年度評価			実施日令和　年　月　日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	（現状） ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、どの教科も良好な結果である。 （課題等） ○主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善を図り、教科部会の充実を図るとともに、ＧＩＧＡスクール構想によるタブレットＰＣを効果的に活用し、「わかる授業」の実践を積み上げ、真の学力の定着を図る。	・教育ＤＸで実現させる学びの自律と個別最適な学び、探究化に、情報端末の活用を含んだ授業改善	・ＩＣＴを活用した学習支援のあり方を検討し、さらなる学力向上につとめていく。 ・全国学力・学習状況調査について、生徒が自己採点を行い、早期に生徒自らが学習状況を把握できるようにする。	・アンケートにおいてＰＣの活用率が前年度に比べ上がったと回答した生徒、教員の割合が８５％以上を達成することができたか。 ・全国学力・学習状況調査の結果分析を教職員全体が組織として行い、教職員アンケートにおいて「今後の指導に役立った」など肯定的な回答が８５％以上を達成したか。				
		・「STEAMS TIME」を含めて教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成において、生徒の興味関心を大切にしたものにしていく。	・本校「STEAMS TIME」をＧＩＧＡスクール構想と関連付け、探究的な学びとして実施する。 ・「STEAMS TIME」を、教職員と生徒がともに学び、試行錯誤しながら今日的な課題解決を目指す展開を行う。 ・７月実施の研究発表の取組を通して教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成に教職員一丸となって取り組む。	・年度末の教職員アンケートにおいて、「STEAMS TIME」の実施において、「生徒ともに探究的な学びを実践できた」等肯定的な回答の割合が８５％以上になったか ・「STEAMS TIME」について研修する機会を設定することができたか。 ・昨年度比較し、研究発表に関する成果アンケートの肯定的な回答が８５％以上を達成できたか。				
2	（現状） ○安全教育における訓練は概ね真剣に取り組んでいる。また、訓練だけでなく校内における安全対策を進めることができている。 ○定期安全点検を通して修繕箇所等を早期に発見し、改善を進めている。 （課題等） ○教職員の毎月の施設設備等安全点検を確実に実施するとともに、生徒自らが危険を予測し、回避する力を育成していく。 ○コロナ禍において、ストレス等を感じている生徒も多いことが予想される。今後も生徒一人ひとりの状況を的確に把握していく体制を構築していく。	・生徒一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた校内体制の充実	・教育支援・相談に係る校内委員会を定期的に開催し情報共有を行っていく。 ・生徒対象のアンケートや面談等を定期的に実施し、生徒一人ひとりの状況を継続的に把握し、組織的な対応を行う。	・教育支援・相談に係る校内委員会を定期的に開催できたか。（年間３０回以上開催できたか。） ・年度末の教職員アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合を 85%以上になったか。 ・年度末の生徒や保護者アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が 85%以上になったか。				
		・教職員・生徒ともに安全で安心できる人的・物理的な危機管理意識を高める。	・教職員の支援のもと安全についての取組を生徒会主体に運営していく。その中で安全な生活の実現に向けた取組を生み出していく。	・避難訓練等を計画的に実施でき、教職員アンケートにおいて、安全に関する項目の肯定的な回答の割合が 85%以上になったか。 ・年度末の生徒や保護者アンケートにおいて、「安全について」等関連する項目の肯定的な回答の割合が 85%以上になったか。				
3	（現状） ○学校地域連携コーディネーターを中心に、地域住民等の参画を得て、チャレンジスクールが運営できている。 ○学校運営協議会が昨年度立ち上がり、定期的な開催ができている。 （課題等） ○学校運営協議会において、目指す生徒の姿について熟議を積み重ねたり、自らの課題を見出したりし、協働して育成する生徒について地域全体で育てていくことを共有していく。 ○学校運営協議会で熟議された内容の周知を具体的な取組の実践を通して、地域とともにある学校づくりを進めていく。	・「さいたま市コミュニティ・スクール成長モデル」を指針として、本校のコミュニティ・スクールの運営に努める。	・チャレンジスクールを通じた学びの輪の充実を図る。そのために、放課後等に学校等を活用し、学校地域連携コーディネーターを中心に、地域住民等の参画を得て、チャレンジスクールを引き続き推進していく。 ・学校運営協議会において「さいたま市コミュニティ・スクール成長モデル」を周知し、CS の理解を深める。	・チャレンジスクールの実施回数を昨年度と比較して増やすことができたか。 ・教職員の年度末のアンケートで、「コミュニティ・スクールの一員として目指す生徒像を共有できた」等肯定的な割合が 80%以上となったか。				
		・本校の教育活動等を積極的に情報発信し、保護者・地域から信頼される学校づくりを推進する。	・本校の教育活動をＨＰや学校だよりを通じて適宜情報発信する。	・本校の教育活動をＨＰや学校だより等を通じて、定期的に情報発信できたか。 ・年度末のアンケートにおいて、保護者・地域・学校との協働や生徒の自律につながる取組の実施等について肯定的な回答の割合が８５％以上になったか。				
4	（現状） ○エバンジェリストが中心になり、情報端末をはじめとしたＩＣＴ活用方法について、研修を進めてきた。 （課題等） ○教職員用ＰＣを含むＩＣＴの活用について、より一層の教員研修が求められる。校内研修を計画的に位置づけ、ＩＣＴ活用の研修を進めていく。	・授業力向上を図るための学び合い、高め合いを実施する ・教職員一人ひとりが力を発揮し、目指す教師像の具現化を図る。	・教員一人ひとりが年間を通して取り組む授業力向上のテーマを設定し、授業を公開する。 ・各自の授業力向上の取組に関する資料を他の職員に広報する。 ・ICT 活用の研修を行う。	・全教員が、年間を通して取り組む授業力向上のテーマを設定することができたか。 ・全教員が、授業を公開することができたか ・ＩＣＴの活用について研修を複数行うことができたか。 ・学習評価の研修会を実施し、肯定的な評価が８５％以上にすることができたか。				